

議論の質疑討論

チエツク しま 9月定例会

平成27年度一般会計決算

集落単位の敬老事業

かつての敬老会を見直し、平成27年度からは各集落や団体などが行う敬老事業に交付金を支出している。

75歳以上の対象者3629人のうち、2684人が何らかの形で参加した。

質疑

【杉谷議員】

町から集落単位となった敬老事業の総括は。

【福祉介護課長】

前年の3割程度の参加者が7割強に増加した。今後集落の行事として定着してほしい。また小さな集落で開催できない所への呼びかけもしていく。

町長

いきいきふれあいサロン事業などとタイアップして、介護予防にもつながればと期待している。

食育の啓発

食生活の改善や食育の推進を担っている食生活改善推進員協議会に、70万円の補助金を支出している。

平成27年度は保育所との連携強化をはかり、園児や保護者に食育の啓発を行った。

質疑

【遠藤議員】

食生活改善推進委員協議会の成果は。

【健康対策課長】

幼児期の食育活動で、委員さんにインストラクターとして保育所を訪問してもらった。保護者に簡単な調理方法を伝える事業を推進した。

とっとり発6次産業

農業者など自らが加工、製造、流通、販売までを行う取り組みに対し補助を行った。

質疑

【吉原議員】

6次産業化の進展状況は。
【農林水産課長】
自然薯生産組合はホームページを立ち上げた。
また、日本海観光開発(株)は豪円湯院に豆腐づくりの加工施設を整備した。県内産の大豆を使用している。

恵みの里公社への補助

大山恵みの里公社への補助金は平成27年度は約3000万円となっている。

質疑

【近藤議員】

補助金のうち農産加工所の経費がかなりの部分を占めていると思うが。
平成27年度の成果や今後の見通しは。
【観光商工課参事】

補助金の大部分は公益事業への補助で、農産物加工施設への補助金は3分の1程度である。

成果は、かつては畜産物が中心だった町内産品の活用が、生鮮野菜などの計画的な活用が可能となった。

自社ブランド製品は難しい、相手がブランドの製品などでかなり高い評価を受けている。



大山寺参道にある豪円湯院

畑かんなどの整備

県が実施する畑かんなどの整備に対し、約5100万円の負担金を支払った。

平成27年度は、名和2期地区など計4地区の整備が行われた。

質疑

【米本議員】

畑かんの整備の状況は。

【農林水産課長】
中山地区の管路は平成29年度で終了する。本管は9割完成。給水設備にあと2〜3年は必要である。
名和地区は全体で7割程度。山陰道から北の整備に5〜6年かかる見込み。



早期使用が待たれる給水栓

【加藤議員】
プレミアム付きお買い物券発行の成果は。
【地方創生本部事務局】
他の自治体に無いようなスタンプラリーで、一定の経済波及効果があった。

プレミアム付きお買物券

大山町商工会に委託し、券面1000円の商品券12枚つづりを1万円で購入し、地域経済の活性化をはかった。

質疑

【加藤議員】

プレミアム付きお買い物券発行の成果は。

【地方創生本部事務局】

他の自治体に無いようなスタンプラリーで、一定の経済波及効果があった。

討論

【反対：大森議員】

今の同和地区とか、地区外とか意識する時代ではない。同和施策を行政が行うということとは、いつまでも同和地区を固定してしまう見直しを求める。

【賛成：西山議員】

差別をはじめ人権問題の議論は続けなければならぬ。

【反対：岡岡議員】

保健福祉センターなどわと名和診療所の光熱水費が、明確に区別して経理しない会計には問題がある。

【賛成：大杖議員】

大山開山1300年を前に多くの事業がスタートした。観光と農業、町民福祉の向上に取り組んだ決算である。

平成28年度一般会計補正予算

参道ギャラリー解体へ

大山寺参道にある老朽化した参道ギャラリーを解体するための設計額350万円を計上した。実際の解体は平成29年度を予定している。

依然続く

ナラ枯れ被害

平成28年度もナラ枯れが発生し、被害木の駆除を行う。

質疑

【大森議員】

ナラ枯れ駆除委託料が2000万円の増額だが、被害の状況は。
【農林水産課長】

平成27年度は約12000本の被害木が確認され、そのうち約3000本が枯れている。本年も昨年ほどの拡大はないが、調査と対策を続けていく。

参道ギャラリー解体へ

参道入り口のこもれび館を県と共同事業で改装する予定なので、1階の日本遺産の案内施設に絵画など展示を検討している。

参道入り口のこもれび館を

県と共同事業で改装する予定なので、1階の日本遺産の案内施設に絵画など展示を検討している。



虫を集めるトラップ